



**ストップ温暖化センターみやぎ  
20周年記念誌**

# ストップ温暖化センターみやぎとは？

地球温暖化防止活動を宮城県内で進めている機関です。

1998年10月に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、地球温暖化防止活動の拠点として、各都道府県知事や政令指定都市等市長が地域の地球温暖化防止活動推進センターを指定しています。

2000年5月22日、全国で4番目に財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（現・公益財団法人）が宮城県知事の指定を受け、「ストップ温暖化センターみやぎ（宮城県地球温暖化防止活動推進センター）」が誕生しました。

宮城県各地で開催される講演会や環境フェア等での普及啓発活動、調査研究や相談への対応などを中心に、地球温暖化防止に関するさまざまな活動を行っています。



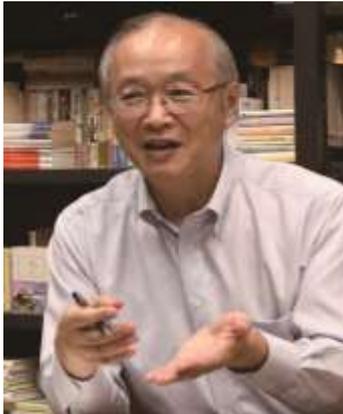
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

## ストップ温暖化センターみやぎの概要

名称	ストップ温暖化センターみやぎ（宮城県地球温暖化防止活動推進センター）
指定団体	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
指定年月日	2000年5月22日
代表者	センター長 長谷川 公一
住所	〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
電話番号	022-301-9145
FAX番号	022-219-5710
E-mail	stop_gw@miyagi.jpn.org
県担当部署	宮城県 環境生活部 環境政策課

## 目次

● 目次	1
● 挨拶	2
ストップ温暖化センターみやぎ センター長 長谷川 公一	
● ご祝辞	3
宮城県知事 村井 嘉浩氏	
● ストップ温暖化センターみやぎ20年間の活動のあゆみ	4
● 特集・特別対談	
「設立時に込められた“想い”からストップ温暖化センターみやぎの役割を見つめ直す」	14
MELON 顧問 齋藤 昭子 (MELON 初代事務局長)	
MELON 理事 門田 陽子 (ストップ温暖化センターみやぎ 設立初期スタッフ)	
● 寄稿「初代センター長時代を振り返り、今後のセンター活動に期待すること」	20
ストップ温暖化センターみやぎ 初代センター長 北條 祥子氏	
● 宮城県地球温暖化防止活動推進員－県全域に広がる活動のネットワーク！	22
● エコdeスマイルコンテストinみやぎ－コンテストで地域に根差した活動を発見！	24
● 寄稿「温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ！～エコdeスマイルコンテスト」	25
MELON 職員 亀崎 英治	
● COP等の世界の動向に関する事業－国際会議の動向を県民へ発信！	26
● 寄稿「COP16代表派遣オブザーバー参加の思い出」	27
ストップ温暖化センターみやぎ 副運営委員長 阿部 育子	
● うちエコ診断事業－各家庭の状況に応じた具体的な省エネ方法をご提案！	28
● キリバス環境出前講話事業－私たちに何ができるのか考えよう！	30
● 寄稿「ご縁、必然な偶然、そしてキリバスの未来の子どもたちの故郷から皆さんへのエール」	31
一般社団法人日本キリバス協会代表理事 ケンタロ・オノ氏	
● コラム「未来のために～気候変動の影響への適応」	32
環境省東北地方環境事務所 環境対策課地域適応推進専門官 金 鋼一氏	
● インターン生からのコメント	33
● 北海道・東北ブロック地域センターについて	34
● 寄稿「祝辞と宮城県センターへの感謝」	35
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 秋元 智子氏	
● 寄稿「京都議定書時代からともに歩んだ先発組センター仲間より」	35
公益財団法人北海道環境財団 久保田 学氏	



ストップ温暖化センターみやぎセンター長

MELON理事長

長谷川 公一

ストップ温暖化センターみやぎが発足して20年。初代センター長の北條祥子先生はじめ、事務局を担ってくださった方々、運営委員として関わってくださった方々、地球温暖化防止活動推進員として関わってくださった方々、県の環境政策課の方々のご腐心・ご苦勞に深謝申し上げます。

北條先生のおあとを受けて、2代目のセンター長をお引き受けしたのは2004年5月でした。この年は「安倍フェロー」としての在外研究のために6月から翌年3月まで不在、本格的に活動を開始したのは2005年4月からでした。

この16年の間には色々なことがありました。大きく4点振り返ります。

第1は、現在全国に59ある地域センターの代表として、本県にとどまらず、全国のセンターを、各地の仲間とともに牽引してきたことです。2006年7月には、都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会の代表幹事に就任、連絡会の代表として当時の若林正俊環境大臣と面談しました。2009年秋の事業仕分けを契機に、2010年8月に設立された社団法人・地球温暖化防止全国ネットの初代理事長を2019年6月まで務めました。手前味噌ですが、ストップ温暖化センターみやぎは、全国のセンターの代表としての役割を果たしてきました。

第2に、ストップ温暖化センターみやぎの場合、県から独立した、純粋な民間財団が親団体であるという特色があります。59の地域センターは、NPO系のセンターと財団系のセンターに大別され、数もほぼ半々です。NPO系のセンターは、気候変動対策のために新たに設立された専門店型が多く、財団系は県の外郭団体の場合が多いのです。みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)のように、純粋に民間の公益財団法人が親団体となっているケースは、現時点でもなお、全国的に珍しいのです。したがって財政状況にはずっと厳しいものがあります。今日あるのは、財源不足の中で、長年努力してこられた事務局スタッフの方々の方々の労苦の賜物です。

第3は、色々なイベントを企画してきたことです。2007年から9年にかけての「エコdeスマイルコンテストみやぎ」はとくに印象的です。全都道府県で開催された「ストップ温暖化「一村一品」大作戦」の宮城県予選でもありました。事業仕分けの影響で宮城県予選はなくなりましたが、全国大会の「ストップ温暖化「一村一品」大作戦」は、その後「低炭素杯」、2019年度からは「脱炭素チャレンジカップ」と名称を変えて、現在も続いています。2014年の低炭素杯では、宮城県のウジエ・スーパーさんが見事、最高賞の環境大臣賞グランプリに輝きました。宮城県の団体や高校は、毎年のように好成績をおさめています。

第4は、運営委員会を開催し、地球温暖化防止活動推進員を養成し、出前講座を行ったり、うちエコ診断を継続したり、地道に活動を継続してきたことです。

世界的に見ると、気候危機への対策の前進を支えているのは非国家アクターの力にほかなりません。世界に例を見ない、1997年の京都会議(COP3)が生み出した地域センターという日本独自の仕組みを、宮城県で体現してきたのが、私たちストップ温暖化センターみやぎです。この記念誌の1行1行が、1頁1頁が、1歩1歩が、私たちの汗と涙の結晶です。

引き続き、ご支援・ご声援をお願いいたします。



ストップ温暖化センターみやぎが創立20周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。また、日頃から、本県の環境行政の推進にご理解、ご協力を賜り、この場をお借りいたしまして、厚くお礼申し上げます。

貴センターは、平成12年に、全国初となるNGOの運営による地球温暖化防止活動推進センターとして本県の指定を受け、以降、県内における地球温暖化対策に関する普及啓発及び地球温暖化防止に寄与する活動の促進に取り組んでこられました。これまで、貴センターの運営及び事業にご尽力された関係者の皆様方に対し、深く敬意を表する次第であります。

さて、環境を巡る問題は、身近な地域から地球規模にまで広がりを見せています。昨年10月には令和元年東日本台風の豪雨により、本県も大きな被害を受けました。豪雨や猛暑などの異常気象が世界各地で頻発する中、特に地球温暖化対策については、令和元年12月にスペインで開催されたCOP25（気候変動枠組条約第25回締約国会議）において脱炭素化に向けた取組の強化が議論されました。本県においても、「宮城県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に掲げる2030年度までの削減目標31%の確実な達成を期すとともに、脱炭素社会の構築に向けて、地産地消型エネルギーの導入拡大、住宅・建築物の省エネ化推進、脱炭素型ビジネスモデルの推進、水素エネルギーの普及拡大及び環境エネルギー関連産業の振興などの取組を総合的かつ計画的に推進しているところです。

その一方で、本県の温室効果ガスの排出量は、依然として東日本大震災前を上回っているほか、気候変動への適応、人口減少社会における地方創生に向けた地域循環共生圏の形成への対応及び2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す取組の推進など、これまでの政策・施策の継続に加え、新たに取り組んでいく必要がある課題も顕在化しているところです。

このような中、貴センターにおかれましては、宮城県地球温暖化防止活動推進員の活動支援や、学校及び町内会等における環境学習をはじめ、イベントなどにおける体験ブース出展や地球温暖化に関するワークショップの開催等により、県民に対する地球温暖化対策の普及啓発や環境情報の発信に努められ、本県の地球温暖化対策に関する施策の後押しをさせていただいております。このたびの創立20周年を契機に、本県の地球温暖化対策の更なる促進に向け、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、ストップ温暖化センターみやぎのますますのご発展と、皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年12月  
宮城県知事 村井 嘉浩

# ストップ温暖化センターみやぎ 20年間のあゆみ

年度	2000	
主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 5月「ストップ温暖化センターみやぎ」始動 (⇒P.14)</li> <li>◆ 北條祥子尚絅女学院短期大学教授 (当時) がセンター長に就任 (⇒P.20へ)</li> <li>◆ 9月 設立記念シンポジウム「身近な暮らしから考える地球温暖化」開催</li> </ul>	 <p>設立記念シンポジウムの様子</p>
主要事業	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">             地域とのつながり強化・市民への普及              </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「環境家計簿CD-ROM普及事業」開始 (～2005)</li> <li>・ 「～21世紀に向けて～東北から環境を考えるシンポジウム」開催</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">環境の日フェアの様子</p>	
COP事業 主な活動	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">シンポジウムの様子</p>	
情報発信	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">             ツール等による普及啓発              </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みやぎ環境白書「省エネ特集号」</li> <li>・ エコライフカレンダー2001</li> <li>・ みやぎエコライフヒント集</li> </ul>	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 25px; padding: 10px;">  <p style="text-align: right;">みやぎ環境白書 (2000年度)</p> </div>
推進員	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">みやぎエコライフカレンダー(2000年度)</p>	
の宮 施城 策県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城県地球温暖化防止活動推進センターにMELONを指定</li> <li>・ 宮城県環境保全率先実行計画 (第2期) 策定</li> </ul>	
世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国連ミレニアムサミット (アメリカ・ニューヨーク)</li> <li>・ COP6 (オランダ・ハーグ)</li> </ul>	

◆ ストップ温暖化センターみやぎ運営委員会の発足



市民講座の様子



↑ペレットストーブ  
小学校講座の様子

↓環境の日フェアの様子



- 市民講座「未来へのメッセージ環境先進国デンマークから」開催
- 市民講座「もの言わぬ空気とともに大気汚染と地球温暖化」開催
- 市民講座「ドイツの環境に優しい住宅・スライドショー～バウビオロギーという考え方～」開催

- 市民講座「森のエネルギー・再発見～ペレットストーブを囲んで～」開催
- 市民講座「林業の現場と木質バイオマス発電・熱利用施設見学会」開催
- 市民講座「どう活かす？みやぎの森林資源～エネルギーの観点から～」開催
- 「IT技術利用エコドライブ診断モデル事業」実施
- 「自然エネルギー（木質バイオマスエネルギー）の調査・普及啓発活動」実施

世界動向へのアプローチ

- プレイベント「京都議定書を守れ！緊急市民集会 inみやぎ」開催
- COP6再開会合（ドイツ）へ2名を派遣、京都議定書内容合意に立ち会う
- 報告会「再開COP6派遣代表者 緊急報告会」開催

- プレイベント「サミット前緊急市民学習会」開催
- 持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）へ2名を派遣
- 報告会「ヨハネスブルグサミット報告会」開催

- みやぎ環境白書「みやぎで取り組む地球温暖化対策」
- エコライフカレンダー2002
- みやぎエコライフヒント集
- 子ども向け環境学習用CD-ROMソフト

- みやぎ環境白書「ヨハネスブルグサミットそして地域の取り組み」
- エコライフカレンダー2003



エコライフ  
カレンダー  
(2000～  
2002年度)



みやぎ環境白書  
(2000年～  
2003年度)



- 宮城県廃棄物処理計画策定  
(環境への負荷の少ない循環型社会の構築)

- 宮城県自然エネルギー等・省エネルギー促進条例制定
- 環境保全型自然体験活動（エコツーリズム）推進のための体験型環境学習プログラム開発
- 宮城県地球温暖化対策地域協議会設立

- IPCC第3次評価報告
- COP6再開会合（ドイツ・ボン）
- COP7（モロッコ・マラケシュ）

- 持続可能な開発に関する世界首脳会議（南アフリカ・ヨハネスブルク）
- COP8（インド・ニューデリー）

年度	2003	2004
主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 9月 宮城県でも地球温暖化防止活動推進員制度（以下、推進員）がスタートし募集開始</li> <li>◆ 2004年3月 委嘱された41名の推進員の活動が開始（⇒P.22）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 5月 長谷川公一東北大学大学院教授がセンター長に就任</li> </ul>
主要事業	<p>地域とのつながり強化・市民への普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮城県内自治体を対象に「地球温暖化対策に関するアンケート及びヒアリング調査」実施</li> <li>「脱・二酸化炭素連邦みやぎ形成フォーラム」開催</li> </ul>  <p>脱CO2連邦みやぎフォーラムの様子</p>	<p>世界動向へのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民講座「川崎町で考えるバイオマスエネルギーの可能性」開催</li> <li>市民講座「脱炭素ってなんだ？」開催</li> <li>宮城県内50世帯を対象に「水道凍結防止電熱線の省エネ可能性に関する調査」実施</li> </ul>
COP事業 主な活動	 <p>推進員研修の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然エネルギー国際会議（ドイツ）へ1名を派遣</li> <li>報告会「あつまれ！省エネゲーマー～京都議定書発効を迎えて～」開催</li> </ul>
情報発信	<p>ツール等による普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みやぎ環境白書「地域で進めよう地球温暖化対策～さらなるステップに向けて～」</li> <li>エコライフカレンダー2004</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みやぎ環境白書「京都議定書発効を迎えて」</li> </ul> 
推進員	<p>研修等による推進員への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推進員研修（6回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>推進員研修（9回）</li> </ul>
の宮城県	<ul style="list-style-type: none"> <li>“脱・二酸化炭素”連邦みやぎ推進計画策定</li> </ul>	
世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>COP9（イタリア・ミラノ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然エネルギー国際会議（ドイツ・ボン）</li> <li>COP10（アルゼンチン・ブエノスアイレス）</li> </ul>

◆ インターン生の受け入れを開始（⇒P.33）



インターン生打合せの様子

- ◆ 7月 都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会の代表幹事に就任
- ◆ 10月 都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会代表として長谷川センター長が環境大臣と面談

- 市民講座「太陽光発電交流会 おひさまシンポジウム めざせ！太陽光発電所長さん」開催
- 夏休み自由研究応援企画「ソーラーカーを作っちゃおう」開催
- 市民講座「海拔1mの島国ツバル」開催
- 宮城県内の一般世帯等を対象に「太陽光発電モニター調査」実施

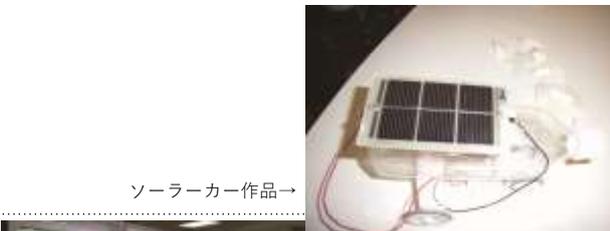


←おひさまシンポジウムの様子

- 夏休み応援企画「おしえて♪新エネ博士！！～新エネルギーが地球を救う？～」開催
- 市民講座「小さなろうそく物語」開催
- 講演会「海拔1メートルの島国ツバル」開催
- 仙台市内の太陽光発電導入小学校を対象に「アンケート調査」実施（独自調査）



環境大臣面会の様子→



ソーラーカー作品→



←新エネ博士開催の様子



←市民講座展示パネル



小さなろうそく物語作品→

- 推進員研修（8回）
- 活動プログラム集作成

- 推進員研修（8回）

- 循環型社会形成推進計画策定
- 宮城県自然エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する基本的な計画策定

- グリーン購入促進条例施行
- 宮城“グリーン”行動促進計画策定
- 宮城県環境基本計画（第2期）策定
- 宮城県自動車交通環境負荷低減計画策定

- COP11（カナダ・モントリオール）

- COP12（ケニア・ナイロビ）

年度	2007	2008
主な出来事	 <p>環境省鴨下一郎大臣面会</p>	 <p>委嘱状交付式</p>
主要事業	<p style="text-align: center;"><b>社会的インパクトの創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エコdeスマイルコンテストinみやぎ2007」開催 (⇒P.24)</li> <li>講演会「地球温暖化を教えて！斎藤さん！」開催</li> <li>角田市共催「角田市環境フォーラム」開催</li> <li>フォーラム気候の危機共催「気候の危機シンポジウムin宮城 やっぱ変だっちゃ！～気候の危機を考える～」開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「エコdeスマイルコンテストinみやぎ2008」開催</li> <li>小中学生を対象に環境学習プログラムの実施</li> <li>Datefmとコラボレーションし、毎週ラジオで環境情報を提供 (～2009)</li> </ul>
COP事業 主な活動	 <p>講演会の様子</p>  <p>気候の危機フォーラム</p>	 <p>環境プログラムの様子</p>  <p>「エコdeスマイルコンテストinみやぎ2008」チラシ</p>  <p>コラボラジオ生出演</p>
情報発信	<p style="text-align: center;"><b>ツール等による普及啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコdeスマイルコンテスト報告書2007</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコdeスマイルコンテスト報告書2008</li> </ul>
推進員	<p style="text-align: center;"><b>研修等による推進員への支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推進員研修 (12回)</li> <li>活動ハンドブック作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>推進員研修 (8回)</li> <li>環境学習プログラム作成</li> <li>ストップ温暖化すごろく作成</li> <li>県外研修バスツアー</li> </ul>
の宮城県	<ul style="list-style-type: none"> <li>みやぎe行動 (eco do!) 宣言登録開始 (環境にやさしい行動を県民・事業者が選択・宣言し、実践)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ダメだっちゃ温暖化」宮城県民会議を設立</li> <li>みやぎレジ袋使用削減取組協定を締結</li> </ul>
世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPCC第4次評価報告</li> <li>COP13 (フランス・パリ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>COP14 (ポーランド・ポズナン)</li> </ul>

- ◆ 5月 ストップ温暖化センターみやぎが10年目を迎える
- ◆ 鳩山政権による事業仕分け



10周年キャラバン講演会の様子



うちエコ窓口診断の様子

- 「エコdeスマイルコンテストinみやぎ2009」開催
- 10周年キャラバン講演会「ツバルから考える地球の未来」実施
- 写真展「ツバルに生きる一万人の人類」開催
- Datefmと共催で温暖化防止啓発コンサート「Forever Green Concert」開催

- 家庭からの二酸化炭素排出状況を診断し、削減のための対策を提案する「みやぎ・うちエコ診断」実施（※次年度からの実施に向けた準備期間）

世界動向へのアプローチ

- COP15（デンマーク）へ1名を派遣
- 報告会「COP15参加報告会・国際交渉シンポジウム」開催



COP15報告会の様子

- COP16（メキシコ）へ2名を派遣（⇒P.26へ）  
※報告会は東日本大震災の影響で中止



COP16の展示



子どもたちが作った理想の地球

- エコdeスマイルコンテスト報告書2009
- ストップ温暖化センターみやぎのパンフレットを作成

- ウェブサイトの環境学習ページをリニューアル



- 推進員研修（8回）
- 希望推進員に研修（4回）実施し、活動ハンドブック作成

- 推進員対象グッズ使用説明会



- クリーンエネルギー自動車（ハイブリッド自動車等）を購入する県民への助成

- COP15（デンマーク・コペンハーゲン）

- COP16（メキシコ・カンクン）

年度	2011	2012
主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 3月11日 東日本大震災</li> <li>◆ 福島第一原子力発電所事故</li> </ul>  <p>ベガルタ仙台に送った救援物資</p>	 <p>推進員の活動の様子</p>
主要事業	<h3>オーダーメイドの温暖化対策提案</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭からの二酸化炭素排出状況を診断し削減のための対策を提案する「うちエコ診断事業」開始 (⇒P.28)</li> <li>夏場のエアコン等の節電に取り組む「みやぎ節電プロジェクト2011」実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏場のエアコン等の節電に取り組む「みやぎグリーンカーテンプロジェクト2012」実施</li> </ul>  <p>グリーンカーテンプロジェクト</p>
COP 主要活動	<h3>世界動向へのアプローチ</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>COP17 (南アフリカ) へ2名を派遣</li> <li>報告会「聞く・話す・知る わたしと世界とオランダカ～①カタヌキのじかん&amp;②基礎から学ぶ国際会議～」開催</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレイベント「あなたの知らないオランダカの世界～身近なストップ温暖化～」開催</li> <li>報告会「COP18報告会～日本・世界の温暖化最新動向～」開催</li> </ul>  <p>プレイベントの様子</p>
情報発信	<h3>ツール等による普及啓発</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウォームビズ普及啓発ウェブサイトを開設</li> </ul>	 <p>プレイベントの様子</p>
推進員	<h3>研修等による推進員への支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>委嘱状交付式とあわせた研修会の開始 (～2020)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況や課題等に関するアンケート調査</li> <li>COP18報告会とあわせ意見交換会</li> </ul>
の宮城策	<ul style="list-style-type: none"> <li>みやぎ環境税導入</li> <li>みやぎ節電推進会議設置</li> <li>宮城県震災復興計画策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮城再生可能エネルギー導入推進指針 (～平成27年)</li> </ul>
世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>COP17 (南アフリカ・ダーバン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連持続可能な開発会議 (リオ+20) (ブラジル・リオデジャネイロ)</li> <li>COP18 (カタール・ドーハ)</li> </ul>



せんだい夏の節電プロジェクト

◆ 新規推進員の募集を再開



推進員委嘱状交付式の様子



みやぎエコドライブ実践プロジェクト

- 家庭における夏場の節電のコツを伝授する「せんだい夏の節電促進プロジェクト2013」実施（「105万人の伊達な節電所キャンペーン」と連携）

- 「うちエコ診断士等養成研修」（新規推進員養成研修を兼ねていた）開始（～2018）
- 自動車からのCO<sub>2</sub>排出削減を目指す「みやぎエコドライブ実践プロジェクト2014」実施

- 「みやぎエコドライブ実践プロジェクト2015」実施
- 木質バイオマスの活用を促す「みやぎ薪・ペレット利用連携促進事業」実施

- イベント「じぇじぇ！大学生が見た「国際会議のウラ側」入門ワークショップ」開催
- 報告会「CYJプレゼンツ！COP19報告会」開催



温暖化防止啓発ツール作りの様子

- 報告会「みやぎ気候変動シンポジウム～気候変動のいま、そして私たちに求められること～」開催



- イベント「留学生と一緒に考えよう！温暖化×国際協力～パリ会議 現地と中継！～」開催
- 報告会「COP21（パリ会議）報告会in仙台～「パリ協定」までの軌跡と、未来へ向けて私たちにできること～」開催

ツール等による普及啓発

- うちエコ診断事業のデータを解析・把握・分析し、パネルを作成

- うちエコ診断事業のデータを解析・把握・分析し、ウェブサイトにて情報提供

- 地球温暖化防止啓発ツール作成・実践研修&交流会
- 有志による一泊二日合宿研修

- 「〇〇ボックス～宮城版～」企画作成
- 研修会・活動報告会
- もがみ木質バイオマスツアー

- 推進員研修（4回）（内1回は山形県で山形県推進員と合同）

- 宮城県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定
- 宮城県自然エネルギー等の導入促進及び省エネルギーの促進に関する基本的な計画改訂



- 「宮城県環境基本計画（第3期）」策定

- IPCC第5次評価報告
- COP19（ポーランド・ワルシャワ）

- COP20（ペルー・リマ）

- SDGs（持続可能な開発目標）採択
- COP21（フランス・パリ）

年度	2016	2017
主な出来事	 <p>キリバス環境出前講座の様子（小学校）</p>	<p>◆ 新規推進員の養成研修が再開</p>  <p>北海道・東北ブロック合同研修の様子</p>
主要事業	<p>気候変動への適応策の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「キリバス環境出前講話事業」開始（⇒P.30）</li> <li>COOL CHOICEの広報および賛同登録の呼びかけ・アンケート実施を開始（～2020）</li> <li>セミナー「気候変動とこれからの私たちの暮らし」開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の省エネアンケート調査を実施</li> <li>地球温暖化防止対策を普及啓発するイベント（6回）を開始（～2020）</li> </ul>  <p>エコチャレンジフェスタ inユアスタ仙台</p>
COP事業 主な活動	<p>世界動向へのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>報告会「COP22報告会in仙台～すでに始まっている被害と損失！温暖化対策の最新動向と私たちにできること～」開催</li> </ul>  <p>COP22報告会におけるパネルディスカッションの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告会「COP23報告会in仙台～地球温暖化対策に関する世界・日本の動きと個人が取り組めること～」開催</li> <li>COPに関連するウェブサイト「せかいとオランダカ」で情報提供</li> </ul>
情報発信	<p>ツール等による普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みやぎエコアクションCALENDAR2017</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みやぎクールチョイスCALENDAR2018</li> </ul>
推進員	<p>研修等による推進員への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推進員研修（2回）</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>推進員研修（3回）</li> <li>北海道・東北ブロック合同研修の開始（～2020）</li> <li>新規推進員養成研修（3回）開始（～2020）</li> </ul>
の宮 施城 策県	<p>宮城山形青森の推進員研修会の様子</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー及び水素エネルギー利活用推進の取組推進</li> </ul>
世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>COP22（モロッコ・マラケシュ）</li> <li>「パリ協定」発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>COP23（ドイツ・ボン）</li> </ul>



森で学ぶ親子環境学習会の様子

◆ 5月 ストップ温暖化センターみやぎが20年目を迎える



- 「英語による森で学ぶ気候変動についての学習会」開始（～2019）
- 「ネイティブと英語で学ぶ環境学習会」開始（～2019）
- コミュニティFMへ出演し、環境情報の提供を開始（～2020年現在）

- 「気候予報士による環境出前講話」実施
- 「環境ウォーキングツアー」開催
- 気候変動への適応策に関する認知度の向上及び地域からの適応策の推進を図るイベントを計5回実施

- 報告会「COP24に参加して～地球温暖化対策に関する世界・日本の動きと個人が取り組めること～」開催



COP24報告会

- 報告会「COP25報告会in仙台①地球温暖化対策に関する世界・日本の動きと個人が取り組めること ②世界の気候変動に対する態度、地方の可能性」開催



COP25報告会in仙台

- 冊子『まったなしのストップ温暖化！』



- 推進員研修（3回）

- 冊子『あなたが変われば世界も変わる！2019』
- みやぎクールチョイスCALENDAR2020



- 推進員研修（3回）

- 「宮城県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」策定
- 「再生可能エネルギー・省エネルギー計画」策定

- 「宮城県ストップ温暖化賞」の創設

- COP24（ポーランド・カトヴィツェ）

- COP25（スペイン・マドリード）

## 特集

### 特別対談 MELON顧問 齋藤昭子×MELON理事 門田陽子



「設立時に込められた“想い”から

ストップ温暖化センターみやぎの役割を見つめ直す」

2000年5月から始動した「宮城県地球温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化センターみやぎ）」。近年、猛暑や集中豪雨などの異常気象による災害が多発し、私たちの暮らしだけでなく、命までもが脅かされています。今後も異常気象による災害の規模は拡大し頻度も増えていく中で、私たちに何ができるのか。創設20周年を迎え、今後の活動のあゆみを考えるきっかけとするため、MELON顧問の齋藤昭子さん（MELON初代事務局長）とMELON理事の門田陽子さん（ストップ温暖化センターみやぎ設立初期職員）から設立当時のお話を伺いました。

#### 全国初のNGOが運営する 地球温暖化防止活動推進センター

**門田：**1998年に「地球温暖化対策の推進に関する法律」ができて、各都道府県が地球温暖化防止活動推進センターを指定することができるようになりました。

私は公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）に、「宮城県地球温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化センターみやぎ、）」がすでに設置されてから職員になったので指定のタイミングにリアルタイムで立ち会ったわけではないのですが、それならば宮城ではMELONが地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けようと盛り上がり、当時の理事たちが中心となって宮城県に働きかけたそうです。MELONは「みやぎ生活協同組合」「宮城県農業協同組合中央会」「宮城県漁業協同組合」「宮城県森林組合連合会」「協同組合日専連仙台」の5つの協同組合の協力をベースに活動しているので、新しい位置づけの動きを作り、更に宮城県全域へ活動を広めていくことを目指して動き始めたようです。

**齋藤：**全国で初めてNGOが運営する地球温暖化防止活動推進センターとして、MELONが宮城県知事から指定を受け、2000年5月から「ストップ温暖化センターみやぎ」が始動したのよね。

**齋藤：**ストップ温暖化センターみやぎ（以下、センター）は、北海道、広島、兵庫に次いで全国で4番目に設置された地域センターで、満を持してという感じですが盛り上がりでしたよね。2000年9月開催の設立シンポジウムには多くの参加者が集まりました。

当時マスコミもたくさん報道したので、やはり市民の関心が高まったのでしょうかね。

**門田：**そうですね。プレスリリースをたくさん行いましたし、COP3が京都で開催され京都議定書ができて、世の中は間違いなく地球温暖化防止に対する機運が盛り上がっていました。

ただ当初は運営資金や事業実施について宮城県と協力して運営していくことを計画していたのですが、実際はMELONにほとんどお任せの状態でした。



設立シンポジウム「身近な暮らしから考える地球温暖化」

## 環境問題に関心を持つ人を増やすために

**門田：**私はMELON入職前、社会保険労務士の勉強をしながら、経済産業局の環境資源部でアルバイトをしていた時期がありました。フリーターだったので、節約しながら生活をしていました。

そこで職員の方が省エネルギーセンターの「わが家の省エネ実践コンクール」を紹介してくれました。全国1位は賞金10万円というコンテストだったので、応募してみたら、なんと全国2位に入賞したんです！東北地域で受賞した人は、私が初めてでした。

そのコンクールでの入賞がきっかけとなり、「MELON環境市民講座」で講師として省エネ実践術をお話させていただくことになりました。そうしたご縁でMELONと出会い、MELONが地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けた後に、専任職員を探しているという話をいただきました。私はちょうど社会保険労務士の試験に向けて勉強に専念するために、前の仕事を7月に退職したところだったので、そうした状況を全てお話した上で、環境のために何かお役に立てるならば試験が終わったら働きたいと伝えました。それで期間契約で2000年9月からMELON職員になって、センターの業務を担当することになったんです。

当時、宮城県からは環境家計簿CD-ROM普及やエコライフカレンダー作成、ごみの調査などの委託事業がありました。エコライフカレンダーは、イメージの関係で全てのイラストについて県と意見をすり合わせ、男女の着ている服の色まで作り込まれています。



環境配慮行動の情報を載せた「みやぎエコライフカレンダー」



インタビューに答える門田陽子さん

**門田：**あわせて、省エネルギーセンターの補助金等を使って活動資金を大きくしていき、環境市民講座や白書作成にも取り組みよい経験をさせていただきました。

**齋藤：**門田さんは省エネの実践者だったのよね。

**門田：**そうですね！職員だった期間は短いですが、2001年5月に退職してからも10年くらいMELONやセンターの肩書で、主婦、まちづくり協議会メンバー、教員や地球温暖化防止活動推進員などを対象に、いろいろな県や地域で講師としてお話ししました。私は自分の講座や活動を通して、はじめて省エネ・温暖化防止活動に触れる方と出会う機会と考えていて、講座が終わったら、参加した方に「いいお話が聞けました」ではなく「家に帰ったら早速やってみます！」と言ってほしいと思っていました。

例えば、私の講座を受けたお母さんがまとめてゴミを捨てようとした時に、ふと私の顔が頭に浮かんで、ゴミを分別してくれるかもしれない。そのうちお母さんのその行動が当たり前になって、それが家族に広がり、お父さんが職場で、お子さんが学校で実践してくれて、さらに広がっていく。

自分にできることは何だろうとそれぞれが考え実践して結果が出た後に、「私がやってみてできたから、あなたもやってみよう」と、誰かに話すこの言葉にはとても力があると思うんです。

全員がプロフェッショナルになるのは難しいけれど、私は皆さんが行動を起こせるよう背中を押すためにお話しているし、皆さんは背中を押されるためにお話を聞きに来ているのだと思い、私はそこに活動の面白みを感じていました。

また、講座の他にも新聞社に取材をしてもらい「電源プラグを抜きましょう」というような省エネの実践術を夕刊に載せてもらいました。

記者の方に1か月間省エネに取り組んでもらい、その検証結果を記事として掲載してもらったこともありました。そしたら、なんと電気使用量が前年同月373kWから89kWに減ったんです。この方は変貌が大きすぎましたが、こうした数字の変化を見せられるように意識していました。

市民講座でも、関心のある参加者に1か月間省エネに取り組んでもらいました。毎日メーターをチェックし1日の使用量がどのくらい減ったのか記録してもらいます。講座参加者の中には、私の話を聞いて「そんなに減るわけがないと思う！」と言う方がいたので、「それでは実際にやってみましょう！」と誘って、実践してもらったこともありました。

その方は省エネの効果が実感できたようで、その後、その方を中心に地域のお母さんたちが自主的に継続して省エネに取り組んでくれるようになったことあったんですよ。

**齋藤：**当時のエネルギー使用に関して、新しい生活様式を提案していたのよね。

ガソリンは車を持っている人しか使わないけれど、電気や水道、ガスは誰もが生活の中で使っているから分かりやすいですよ。

**門田：**いまは一般の方々も地球温暖化問題を当たり前で認識していますが、当時は市民にとってまだまだ遠い問題だったと思います。



MELON環境市民講座



MELON環境市民講座

環境問題に関心があって真面目に一生懸命に取り組んでいる人と、せっかくこんなに便利で暮らしやすい社会になったのにどうして我慢しないといけないのだろうと感じている人で大きく分かれていたんですよ。

地球温暖化も私たちの暮らしとつながっている大きな問題なので、環境問題に全く関心がない人も関心を持てるように、動き出す人を増やすために、従来とは違った理念でのアプローチが必要と考えて、日常生活の中で当たり前に取り入れられるような実践術を紹介することで間口を広げられました。当時は職員も少なかったですし、私は活動のすそ野を広げるべく、どんどん外に出ていって、外部の人を巻き込んでいきました。

地域で活動する時、私たちがずっと入り続けているから活動が続く、もし私たちが抜けたら活動が終わってしまうというのは、種を蒔いたことにはならないと思うんです。システムとして回り続けるようにサポートや後押しが必要な場合もあるけれど、私たちが抜けても、当たり前に行動できる人たちがその地域に残るようにすることが私の信念でした。

センターの活動の目的は「人財」を地域に残すこと。「私たちが地域をサポートした後には人が、想いが、行動が、その地域に残るように」を目指して取り組んでいました。

## 国際会議の場に市民代表を派遣

**門田：**2001年3月、アメリカは当時のブッシュ大統領が京都議定書から離脱すると宣言しました。経済活動と環境の両立に関する議論は当時からありましたが、アメリカの京都議定書離脱の事実を広く伝えるため、そして京都議定書の理解と日本の早期批准を求めて、緊急集会を開きました。

また、当時の総理大臣や環境大臣に「地球温暖化防止・京都議定書の早期批准、発行を求める意見書」を提出しました。あわせてより踏み込んだ活動をしていくため、MELONの理事たちの強い意思もあり、COP6再開会合の現地の様子を県民に向けて発信しようと、当時の北條祥子センター長と一般公募で選ばれた市民代表をドイツへ派遣したんです。MELON創立のきっかけが1992年にブラジルで行われた地球サミットなので、現地からのリアルさを原動力にというか、その魂がセンターにも受け継がれているのだろうなと思います。

MELONには学会などで当たり前海外へ行き、世界基準を知る大学の先生方がたくさん関わってくださっていました。私のような普通の主婦からしたら国際会議に行く?!という衝撃的な発想でしたが、先生方からは「あたり前でしょう!」という空気が漂っていたんです。グローバルに議論されていることと日々の生活をつなぐことが、センターの使命であり役割なのだと思います。

学術的な専門家とのつながりがあって、人々の生活ともつながっている。そして、そこがフラットに情報交換できる。こうした場所って他にはなかなかないと思うんです。



「京都議定書を守れ! 緊急市民集会inみやぎ」



「再開COP6派遣代表者 緊急報告会」

**齋藤：**国際会議の場にNGOが出席するのはグローバルスタンダードですよね。ただ日本の場合地方レベルのNGOや地方自治体の参加はなかなか少ない。私たちもNGOとして活動し、地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている以上、やはり現地へ行くべきであり、役割を果たさなければならないという気持ちがありました。

きっと宮城県からMELONがセンターの指定を受けられたのは、団体のそうした特色があったことも関係しているのだと思います。

## 地域の視点で地球温暖化問題を議論できる場として

**門田：**それから、当時の活動の特徴のひとつに政策提言があります。提言書を作る団体はなかなかなかったので、やはり大きな存在感を示していたと思います。

2004年まで毎年発行していた「市民がつくるみやぎ環境白書」は、初代センター長の北條祥子先生がとても力を入れていた活動でした。地球温暖化問題は昔の公害問題と違い、特定の発生源に起因するのではなく、私たちの日々営まれている暮らしに関わって起こっていて、解決のためには行政、市民、企業や研究者などあらゆる立場の人々が知恵を出し合って行動していくしかないという考えのもと、センター長が持つネットワークを活かしてさまざまな方から論文を提供していただきました。

難しいテーマをどうかみ砕いて市民に伝えていくのか課題もありましたが、そうした調査研究の結果をベースにセミナーも開催していました。

センターが設置されてから1年後に運営委員会を発足させたのも、客観性の担保や法律に求められている機能を持つ温暖化センター運営のため、さまざまなセクターを巻き込みたいと考えた結果でした。活動に関わるメンバーの主観だけでストップ温暖化センターみやぎが運営されるのではなく、県民のために地域の視点で地球温暖化問題を議論できる場として、どうしても運営委員会を立ち上げたいと思いました。

MELONの役員会や理事会では、なかなか繋がりが持てないセクターも、法律に基づいたセンターなら関わってもらえる。私は職員の立場を離れる前に運営委員会の要綱を作って、MELON理事会で承認してもらい、離職後は副運営委員長として関わることになりました。

**齋藤：**事務局としての仕事は、きちんと明文化して運営の枠組みを作ること。それをきちんと整理したのが門田さん。組織を動かしていくためには、活動だけでなく運営の仕組みが必要だからね。

そしてセンターの活動を支えるMELONの運営もないと、指定を受けただけでは中身は動いていかないですね。

**門田：**機関誌に記録が残っていると思うけれど、当時MELONは全部会プロジェクトの予算よりもセンターに拠出する予算を大きく配分していて、それはものすごいプレッシャーでした。



市民がつくる「みやぎ環境白書」



ストップ温暖化センターみやぎ運営委員会

## ストップ温暖化センターみやぎ 設立20周年に寄せて

**齋藤：**国が出す環境白書、宮城県が出す環境白書。形は変わっても、毎年でなくても良いので、市民がつくる環境白書のような発信をしてほしいと思います。私たちの目指してる社会像と照らし合わせながら、市民のレベルで現代の社会問題に対して評価していくことが大事だと思うんです。

エネルギーの使い方に関して、暮らしからの二酸化炭素の排出を削減していこうという活動は、民生部門のエネルギー消費がどんどん増えていった時代の話であり、いまは電気であれば、電気の構成をどうしていこうかという時代なのではないかと思います。世界的には石炭火力発電の急廃止が言われているのに、日本はどうでしょうか。今後は効率の悪い発電所は廃止していくと発表がありました。新しく作る発電所に関しては不問です。市民の立場から気候変動による影響や新しい生活様式について積極的に提案してほしいと思います。

**門田：**私がいま一番嬉しいのは、センターの職員の雇用が続いていること。

当時はバブル崩壊後の緊急雇用の予算を充てていたので、長くても1年で人材を変えないと次の事業をもらえませんでした。でも活動って...人と人との繋がりが次の事業を生んでいくと思うんです。

だから、皆さんがセンターの職員として長く働いていてくれることが本当に嬉しい…。つながりは力ですからね。職員の方々には、関心のあることにどんどん挑戦して行ってほしいと思っています。

私が職員だった当時は、地球温暖化に関する「情報発信・収集」「相談窓口」「政策提言」「研修事業」「調査研究」「普及啓発」「活動支援」の7つが活動の切り口でした。やらなければならない活動や業務はもちろんあると思うのですが、職員が日々の業務の中で気になることって、時代の最先端テーマではないかと思うんです。

規模が大きいか小さいかは関係なくて、皆さんの感覚を大事にすることが重要だと思います。ぜひいろいろなチャレンジをして行ってほしいですね。さまざまなきっかけでいろいろな事業が生まれます。

例えば、いままではダイオキシンの知識は一般的になりましたが、大崎八幡宮のどんと祭でビニール袋を外してから焼くというのはMELONからの働きかけで始まったことなんですよ。

「ビニール袋を焼くってどうなのかな」と誰かが疑問に思ったことがきっかけで、どんと祭ではビニール袋を外すことが当たり前になりました。だから、動き出して共感を得られれば、大きな動きになることは間違いない。そうした時に力を貸してくれる方々との繋がりを、MELONとセンターは持っているんです。

皆さんの感性で「動いてみたい」「いまやるべきだ」ということを見つけてプロジェクトを生み出してほしいと思います。私はそれを精一杯応援していきたい。私たちも取り組もうと思って、失敗した活動やイベントがたくさんあるんですよ。あとは、ぜひ活動を記録に残して行ってくださいね。

**齋藤：**職員が夢中になれることが一番ね。



齋藤昭子さん

門田陽子さん

## 初代センター長時代を振り返り、 今後のセンター活動に期待すること

初代ストップ温暖化センターみやぎセンター長  
MELON名誉理事  
北條 祥子



### はじめに

「ストップ温暖化センターみやぎ」設置20周年、本当におめでとうございます。初代センター長をさせていただいた私にとって、センターが20周年を迎えたことに対し、大変、感慨深い思いがあります。今、振り返りますと、初代センター長ということで張り切り過ぎ、赤面するような行動ばかりしてきた気がしますが、僭越ながら、当手を振り返り、今後のセンター活動に期待することを述べたいと思います。

### 初代センター長を引き受けた経緯

宮城県地球温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化センターみやぎ）は、北海道、広島、兵庫に次いで、全国で第4番目に設立されたセンターです。宮城のセンターの大きな特徴は、他県が県の外郭団体だったのに対し、環境NGO（みやぎ環境とくらしネットワーク、MELON）が推進母体のセンターだという点でした。

当時、私は、尚絅女学院短期大学人間関係学科教授として、校務（週8コマの講義、クラス担任他）の他に、研究面では厚生省・シックハウス病態解明検討委員、日本建築学会・シックハウス対策検討委員、および、環境省・小児の行動パターン検討ワーキンググループのメンバーとして、社会活動面では各種審議会委員（例；環境省農薬環境懇談会、宮城県総合審議会、仙台市環境審議会など）を兼務しており、物理的・精神的に余裕のない生活をしておりました。

そこで、センター長就任をしゅびっている私に対し、「NGOが主体の温暖化防止活動センターの役割は大きい。全面的に協力するので、是非、引き受けて下さい！」と、強く私の背中を押してくれたが、当時、私の環境ボランティア活動を手伝ってくれていた主婦の田中美恵子さんでした。「県から何の資金援助もなく、行政にうまく利用されるだけでは？」と心配する声もありましたが、私は、「市民の声で行政を変えていけるようなセンターにしたい」と前向きに考えて、センター長を引き受けることにした次第です。

### 「設立シンポジウム」を開催して船出

設立シンポジウムには、高月紘・京都大学教授（環境漫画家・ハイムーン先生）、和田武・立命館大学教授（自然エネルギー問題専門）田中正之・東北大学教授（温暖化メカニズム解析専門）、呉地正行・日本鷹を保護する会会長（鳥類への温暖化影響専門）の4人のシンポジストをお願いしました。各先生方のご専門の立場から、「市民参加型の温暖化防止活動の重要性」についてご講演いただき、会場の参加者（約100名）と、熱気のある活発な質疑応答をしました。当日は、浅野史郎県知事も挨拶にかけつけて下さり、大盛会の内に、設立シンポジウムを開催し、センターは船出しました。（河北新報、2000年9月17日記事右図参照）。



設立シンポジウムにて挨拶をする北條氏



## 初代センターの具体的活動

初代センターでは、以下のような活動を行いました。1) 国内外の温暖化防止活動団体との交流・情報交換)。全国温暖化防止センター会議には、毎年、必ず参加しました。また、第6回国連気候変動枠組み条約締約国会議世界温暖化防止会議(COP6、西ドイツのボンで開催)に、北條と伊藤卓雄さん(民間から公募)が参加。そして「COP6緊急報告会(P.5参照)」を開催し、県民に世界の最新情報を報告しました。2) 県の委託事業では、①温暖化防止活動推進員養成、②環境教材「みやぎエコカレンダー(P.5参照)」と「環境家計簿CD-ROM」の作成。③温暖化防止の啓蒙活動(例:推進員と共に県内各地で上記教材の普及)。3) 大学や地域の環境活動家の協力を得ながら、省エネ推進に関するセンター独自の基礎的調査を行い、その結果をわかりやすくまとめて、「市民がつくるみやぎ環境白書(P.5参照)」を発行しました。白書では、市民が地域で行っている様々な環境活動内容も執筆していただきました。「市民版環境白書」発行は、5年間継続されました。

以上のような、センターの活動は、市民参加型で地域密着型の温暖防止活動として、当時は全国的に珍しく、高い評価をいただきました。上記のことができたのは、事務局長の斎藤昭子氏、田中美恵子氏、門田陽子氏、伊藤卓雄氏、篠原富雄氏、山田一裕先生、石垣政裕先生、西崎友一郎先生など、現在も活動を継続しておられる多くの方々が献身的に活動して下さったおかげです。

この場をお借りして、改めて、深く感謝致します。

## 体調をくずし、センター長を交代

私は、東北大学医学部薬学科(現薬学部)を卒業後、東北大学歯学部(25年間)、尚絅女学院短期大学/尚絅学院大学(18年間)、早稲田大学応用脳科学研究所(10年間)と、約50年間、“環境と健康”に関する研究教育に従事してきた研究者です。当時は2人の子ども達は家庭を持ち、主人は東北大学薬学部から昭和薬科大学副学長として単身赴任をしておりましたので、校務の他に、研究や社会活動ができる立場でした。毎日、午前様のハードな日々で、体調をくずし、センター長を辞める羽目になってしまいました。

後任の長谷川公一先生は、私のように早急に事を進めるのではなく、有能な事務局や運営委員に任すところは任せ、環境省や宮城県環境政策課とも密接な連携を取りながら、長期展望を示しながら、“ストップ温暖化センターみやぎ”を全国センターの中心的存在にまで発展させて下さり、感謝の言葉しかありません。

## Withコロナ下で今後のセンター活動に期待すること；Think Future, Act Now!

私の専門は環境過敏症(シックハウス症候群/化学物質過敏症/電磁過敏症)の病態解明の研究です。環境過敏症とは通常では感じないレベルの化学的要因(受動喫煙・農薬・殺虫剤・芳香剤・柔軟剤等)、物理的要因(音、光、電磁場(スマホ・ゲーム機・携帯基地局・パソコン・テレビ等)、生物的要因(カビ・ダニ等)により自律神経系障害を中心とする多臓器の多彩な症状が発現する健康障害の総称です。アレルギー疾患と密接な関係があり、今、世界各地で患者の急増が報告されております。子供の環境過敏症患者は行動障害や学習障害合併が多いとの報告もあります。そこで、今、私が、一番危惧していることは、地球温暖化等の環境悪化が次世代の子供の健康、特に脳神経系の発達段階に及ぼす悪影響です。

私は、新型コロナのような新興感染症も環境過敏症も人類が経済最優先の便利で豊かな生活を享受してきたことに起因するため、現代人なら誰がいつ発症してもおかしくない健康障害だと考えます。すなわち、私達現代人は、被害者であると同時に加害者でもあります。したがって、問題解決のためには、私達自身が、当事者意識を持ち、次世代の子供が健康で暮らせる持続可能な社会に転換するための具体的な取り組みを、試行錯誤しながらでも、一刻も早く、開始すべき時期にきていると考えます。

そして、こんなWithコロナ時代だからこそ、20年間、市民参加で地域に密着した地道な活動を継続してきた「ストップ温暖化センターみやぎ」の果たす役割は大きいと思います。センターのますますの発展をお祈りします。

私も、微力ですが、“約50年間、環境と健康の関わりを研究してきた4人の孫を持つ76歳のおばあちゃん研究者だからこそできるご協力をさせていただきたいと思います。

## 宮城県地球温暖化防止活動推進員 – 県全域に広がる活動のネットワーク！

宮城県地球温暖化防止活動推進員（以下、推進員）は、地球温暖化防止活動に関する各種研修を重ねた後、「地球温暖化防止対策の推進に関する法律」（以下、温対法という）に基づき宮城県知事より委嘱を受けて、地域に密着した普及啓発活動を行う方々です。宮城県では86名の推進員が特技や経験を活かしながら活動しています（2020年現在）。任期は、委嘱日から翌年度の3月31日までの約2年間です。

### 温対法であげられている推進員に期待される活動



- ①地球温暖化の現状や重要性を伝える
- ②日常生活での対策方法の指導・助言
- ③活動情報の提供
- ④行政施策への協力



宮城県内に広がる推進員のネットワーク（2020年8月現在）



これまでの活動を  
振り返って  
～未来を創るお手伝い～

千葉智恵さん  
推進員（第1期生）

この度、寄稿文の依頼を受け、初めて自らの活動の歩みが20年に達していることに気づかされました。発端の想いは「子ども達に負の遺産を残したくない」であり、振り返れば活動を通して多くの出会いに恵まれ、私の人生に大きな彩りを与えてくれました。

講座の中で省エネの実践&継続のコツとして、我慢ではなく暮らしの質を落とさずに省エネすることを私の実践例も交え伝えています。

ある時、小学6年生から「地球温暖化は暗い未来と思っていたけれど、選ぶ行動で楽しみながら快適な暮らしと温暖化をとめることができると知り良かった」との感想が特に嬉しい印象として残っています。

地球温暖化を身近に感じるようになってきた今こそ、低炭素社会を築くことは、暮らしやすい未来を創ることだと、今後も伝えていきたいと思えます。



イベントに参加をして

佐藤憲司さん  
推進員（第11期生）

イベントでアンケート用紙への記入をお願いする時、以前より地球温暖化防止に人々の関心が高まっているのを感じます。特に思い出深いのは利府のサッカースタジアム広場でのイベントです。宮城県内の地域の特性を生かした色々なブースが多くあり、更に名物料理を安く売っているの、大変な盛況でした。

私たちのブースではMELONの方々と一緒になって温暖化防止のPRを、声を上げて一生懸命にお願いしました。1人当たりのエネルギー使用量を個別に重さで表して、国名を当てる問題は子ども達が真剣に答えてくれました。また、各家庭の二酸化炭素の排出量をパソコンで計量し、その削減する方策を調べる「うちエコ診断」コーナーでは多くの家族が挑戦してくれました。

1人ひとりの地道な活動が、この地球を守ることにつながることを肌で感じた有意義なイベントでした。



## 東日本大震災と 推進員活動

菊地ひろ子さん  
推進員（第3期生）

2009年に推進員仲間と「青空エコカフェ」を立ち上げ、商店会の青空市等で、市民に温暖化防止を訴える活動を始めました。2010年12月には「気仙沼市冬の省エネチャレンジ」の実行委員長として「環境に優しい町作りの一歩にしよう」と呼びかけ、約100名の市民が家庭や企業で省エネに取り組みました。まさに地域での温暖化防止活動の先駆けとしてその扉が開こうとしていました。しかし2011年3月11日、東日本大震災が発生。表彰式は自然消滅となり、市に対策を尋ねると「それどころじゃないから」と一蹴され、先の見えない絶望感は底知れないものでした。

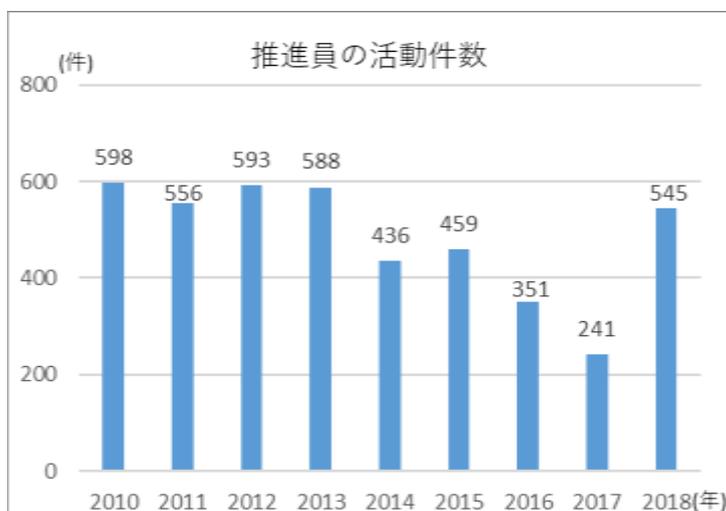
震災翌日から津波で流失した実家や妹の助けに奔走する無我夢中の辛い日々でした。6月からはみやぎ生協県北ボランティアセンター事務局員として、被災者支援活動に取り組み始めました。「狭い、暑い、隣の声が聞こえる」等の不満な訴えをどう解決したら良いのか、傾聴で済まされる問題ではないと懸念していました。その矢先、宮城県地球温暖化防止活動推進センター(MELON)から「青空エコカフェ」に、被

災者に断熱シートや温度計を提供し、省エネ効果を記録する「みやぎ節電プロジェクト」への参加要請がありました。鹿折中仮設住宅や切通仮設住宅住民が受諾し、千葉清幸推進員が技術者の知識を交え、断熱や衣食住の省エネを楽しく丁寧に説明し、取組への理解を得ることが出来ました。断熱用品を支援でき、また記録にも挑戦する住民の心意気に感動し、仲間と手を取り合って喜びました。

気仙沼市地球温暖化防止啓発事業にも参加しました。15か所の仮設住宅で「冬を暖かく過ごそう、地球にも優しく」のテーマで省エネや風呂敷活用術、保温調理など時に応じて、住民同士のコミュニケーションに力を委ねながら温暖化防止を訴え、実践に繋げることが出来ました。令和2年2月まで、活動は63回、参加人数1,083人に達しました。失われた町の原風景を心に刻み、この地の人々に寄り添い、活動が再開出来る日を待ち望んでいます。



みなし仮設住宅住民対象の学習会



出典)宮城県環境白書(平成23年~令和元年版)より作成

### ◆ストップ温暖化センターみやぎの 推進員活動支援について…

センターでは、温暖化に関する最新情報や環境学習グッズなど、推進員の活動をサポートするさまざまなコンテンツをご用意しています。

情報提供

学習教材貸出

啓発資料提供

研修会の開催

## エコdeスマイルコンテストinみやぎ – コンテストで地域に根差した活動を発見！



「エコdeスマイルコンテストinみやぎ2009」の受賞者

	2007	2008	2009
応募数	61件	68件	76件

「エコdeスマイルコンテストinみやぎ」は、個人、NPO・NGO、学校、企業、自治体などを対象に、宮城県内で行われている草の根的なエコな活動や物を募集し、その中から身近な日常生活と結び付いた優れた地球温暖化対策の取組を表彰するコンテストです。

このコンテストは、環境省の「ストップ温暖化一村一品大作戦」事業として全国で一斉に行われ、他県でも工夫を凝らしたネーミングで同様のコンテストが開催されていました。

地道に取り組まれていた地域に根差した活動にスポットを当て、地域から都道府県そして全国へと発信し、低炭素社会の礎となる取組をより推進することを目的として行われました。環境省の事業は事業仕分けによって予算が打ち切れ2009年度で終了となり、2010年度以降は民間から開催資金を集めて「低炭素杯」、2019年度以降は「脱炭素チャレンジカップ」と名称を変えながら続いています。



### ■最優秀賞の受賞団体



2007年度・最優秀賞「魚のまち塩竈地域エネルギー好循環形成事業」

- ・応募団体：塩釜市団地水産加工業協同組合
- ・活動内容：塩竈市の基幹産業は水産加工業であり、その中でも揚げ蒲鉾生産量が多いことから、その使用済み油を活用してBDF（バイオディーゼル燃料）化事業によって資源へと転換し、循環型社会の構築とCO<sub>2</sub>削減、基幹産業の活性化を目的とし、エネルギーの地産地消を目指しています。廃食用油の回収先は、揚げ蒲鉾工場が9割を占め、回収した廃食用油は、精製プラントでさまざまな工程を経てBDFにしています。精製したBDFは車両等に給油するため、不具合を起こさないよう品質分析も実施しています。



2008年度・最優秀賞「温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ！～わたしたちのエコタウン宮町2008～」

- ・応募団体：仙台市立北六番丁小学校6年生
- ・活動内容：学校では、エコロジーハウス・梅田川エコ水族館の小屋をアサガオで壁面緑化し、梅田川から取ってきた魚やザリガニを中で飼育しています。家庭では、夏休みを利用してストップ温暖化のアイデアを各家庭で実践してきました。地域では、東北工業大学・近藤研究室と宮町商店街の協力で、レジ袋削減などの取り組みを行っていく予定です。子供たちが主体となって、学校から家庭、地域へとストップ温暖化の輪を広げていく活動です。



2009年度・最優秀賞「エコーガニック with ノーマライゼーション」

- ・応募団体：株式会社ウジエスーパー 株式会社ウジエクリーンサービス（障害者特例子会社）
- ・活動内容：スーパーから排出され、焼却処分していた食品残渣を有機質肥料化し、その有機質肥料を地元農家が使用し米や野菜を生産、さらにその米を原料に地元醸造が純米吟醸酒を製造しました。それらをプライベートブランドとして販売する循環を確立。また、さまざまなところとタイアップして環境活動が広がっています。そしてその全工程に障がい者雇用を創出し、環境に優しく、地球を元気にし、みんながHAPPYになる取組です。

## 「温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ！

## ～エコdeスマイルコンテスト」

MELON事務局 職員 亀崎英治



私が小学校の教員として仙台市立北六番丁小学校に勤務していたとき、ストップ温暖化センターみやぎからエコdeスマイルコンテストに出ないかという話をいただき、2007年と2008年に子どもたちが参加しました。特に2008年の大会では最優秀賞である宮城県知事賞を受賞し、全国大会の「ストップ温暖化一村一品大作戦」にも出場させていただきました。題名は「温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ！～わたしたちのエコタウン宮町2008～」です。その内容は……。

8年後の2016年、当時6年生だった子どもたちも20才の成人を迎え、小学校の校庭に次々と集まって思い出話を始めます。

最上級生となり、先輩たちから受け継いだ梅田川エコ水族館。それは、使われなくなった鳥小屋をエコロジーハウス「太陽と緑の梅田川水族館」に改装したものです。屋上に設置した太陽光・風力発電で水槽内のポンプを動かす、アサガオとヘチマのグリーンカーテンで壁面を覆っています。中では、近くを流れる梅田川に生息する絶滅危惧Ⅱ類のギバチが涼しげに泳いでいます。また、東北工業大学の近藤祐一郎先生と学生のみなさんの協力により、牛乳パックで作ったエコバッグを持って、地元の宮町商店街で買い物をしました。「レジ袋はいりません。」そう言うと、お店の人から地域通貨「エコイン」が渡されます。それを集めて商店街のすてきな品物と交換できる福引き大会も行いました。「温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ！」の合い言葉を思い出し、今も梅田川水族館があることに誇りと伝統を感じるというストーリーでした。地球温暖化防止のために、苦痛を感じるのではなく、楽しみながら取り組んだことが評価されたと思います。

さて、当時の子どもたちは今年で24才。その中の一人、Sさんは「先生になってクラスの子どもたちに尋ねられ、梅田川水族館やエコバッグのことを懐かしそうに思い出す」という架空のストーリーを卒業文集に書いていました。Sさんは夢を叶え、現在、中学校の数学の先生として働いています。Sさんは、当時の活動のことを果たして覚えているのでしょうか。そして、子どもたちにそのことを語っているのでしょうか。夢は広がります。



「エコdeスマイルコンテストinみやぎ2008」  
表彰式の様子



全国大会「ストップ温暖化一村一品大作戦」  
出場の様子

## COP等の世界の動向に関する事業 – 国際会議の動向を県民へ発信！



COP15本会議の様子（2009）

COP21では全ての国が参加する2020年以降の枠組みとしてパリ協定が採択されました。またCOP25ではパリ協定の詳細なルールが議論され、地球温暖化問題は世界規模で取り組むべき喫緊の課題としてますます関心が高まっています。国際会議の現場の雰囲気や他国にあるNGOの取り組みなどの情報をいち早く入手して発信し、宮城県民がタイムリーな情報を手に入れることができる機会を提供するため、COP等の世界の動向に関するプレイベントや現地派遣、報告会を実施しています。

	本事業に関連する国際会議と気候変動枠組交渉の経緯(※)	センターの動き
1992	国連気候変動枠組条約（UNFCCC）採択（1994年発効） （締約国数：197カ国・機関）	
1997	COP3（日本・京都） 京都議定書採択（2005年発効）（締約国数：192カ国・機関）	
2001	COP6再開会合（ドイツ・ボン） 京都議定書内容合意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プレイベント</li> <li>• 派遣（ドイツ）</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2002	持続可能な開発に関する世界首脳会議（南アフリカ・ヨハネスブルグ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プレイベント</li> <li>• 派遣（南アフリカ）</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2004	自然エネルギー国際会議（ドイツ・ボン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 派遣（ドイツ）</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2009	COP15（デンマーク・コペンハーゲン） コペンハーゲン合意→先進国・途上国の2020年までの削減目標・行動をリスト化すること等に留意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 派遣（デンマーク）</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2010	COP16（メキシコ・カンクン） カンクン合意→各国が提出した削減目標等が国連文書に整理されることに	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 派遣（メキシコ）</li> <li>• 報告会（3.11により中止）</li> </ul>
2011	COP17（南アフリカ・ダーバン） ダーバン合意→全ての国が参加する新たな枠組み構築に向けた作業部会（ADP）が設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 派遣（南アフリカ）</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2012	COP18（カタール・ドーハ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プレイベント</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2013	COP19（ポーランド・ワルシャワ） ワルシャワ決定→2020年以降の削減目標（自国が決定する貢献案）の提出時期等が定められる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プレイベント</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2014	COP20（ペルー・リマ） 気候行動のためのリマ声明→自国が決定する貢献案を提出する際に示す情報（事前情報）、新たな枠組の交渉テキストの要素案等が定められる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 報告会</li> </ul>
2015	COP21（フランス・パリ） パリ協定採択→2020年以降の枠組みとして、史上初めて全ての国が参加する制度の構築に合意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プレイベント</li> <li>• 報告会</li> </ul>
2016	COP22（モロッコ・マラケシュ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 報告会</li> </ul>
2017	COP23（ドイツ・ボン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 報告会</li> </ul>
2018	COP24（ポーランド・カトヴィツェ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 報告会</li> </ul>
2019	COP25（スペイン・マドリッド）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 報告会</li> </ul>

(※気候変動枠組交渉の経緯は、外務省「わかる！国際情勢」参照)

## COP16代表派遣オブザーバー参加の思い出



ストップ温暖化センターみやぎ 副運営委員長 阿部育子

私は2010年12月にCOP16代表派遣としてカンクン市(メキシコ国)で開催の国際会議にオブザーバーとして参加しました。

当時私はストップ温暖化センターセンターみやぎ副センター長であり、その年、ちょうど仙台市の市民センター館長職を退いたばかりでした。

1人で現地へ行く不安もありましたが、およそ2週間の出張日程の調整が必要となれば現役の方だとなかなかむずかしいらしく要請をお引き受けすることにしました。デジカメやパソコンを用意し、現地からウェブレポートを行うという大役をいただき恐れ多くもチャレンジの機会をいただきました。

ちょうど10年前、スマホもiPadもない時代です。通信事情も現代のようにはいかず昼間取材した記事をホテルから送信するには、だいぶ苦労しました。英語表記はなく、スペイン語がわからない私はパソコンルームが使えないし、数も限られています。それでホテルでは、自室で原稿を書きため翌日、会議場の通信できる部屋から日本へ送信していました。送信数が多く、写真を入れると容量も大きくなるらしく、通信を制限するようなことも起こり、送信できなかった原稿もあります。また会議場で参加者が一斉に送信するような時にも、通信スピードのトラブルが起きました。

メキシコ・カンクンへの旅は、旅慣れているつもりのもちよっと遠く感じます。

成田からヒューストン経由でカンクンへ、アメリカへ入国し直ぐにメキシコへ出国するという、慌ただしさ。おまけに搭乗口が変更になり、あの世界でも有数の広さのヒューストン空港をダッシュで駆け回る羽目になり、体力も相当使いました。仙台を出てから目的地に着くまでの時間は、およそ24、5時間くらいかかりました。

カンクン市はユカタン半島の突端にある世界でも有数のリゾート地です。カリブ海とラグーンに挟まれたおよそ20Kmの長い洲にホテルが林立しています。COP16の多くの参加者が宿泊しているホテル街から会議場まではシャトルバスが出ています。この期間中は24時間運行しているので助かりました。

実は、会場が二つに分かれています。一つはイベント会場のカンクンメッセと、もう一つは会議場となるムーンパレスです。どちらに行くにしても最初にカンクンメッセでセキュリティを通過しなければならず、そこから8キロ離れたムーンパレスに行くシャトルバスに乗るということで二つの会場を行き来するには、ちょっと不便に感じました。

ホテルを朝に出発してシャトルバスで会場へ着き、セキュリティチェックを通過して、あちらこちら歩き回り、時には日本へのレポート送信のために通信できるコーナーで順番待ちをしたりして、毎日、長い時間会場にいました。

特にカンクン合意が出るかもしれないという時には、午後8時頃？10時ころ？と待ち続け、とうとう12時になったことも。後で知ったところでは、翌朝午前4時にカンクン合意が出たそうです。

あれからちょうど10年目、大変な時代です。大変というのは、大きく変わると書きます。

新型コロナウイルスの影響も加わり、世の中の変化はあちらこちらで感じます。秋の味覚、サンマの季節、海水温が高くサンマが沿岸から離れ、庶民の魚が今や高級魚になっています。私たちに今、できる事は何でしょうか？改めて考えていかなければなりません。

もし、関心がおありでしたら下記のURL に掲載されているCOP16WEBレポートもごらんください。

MELONウェブサイト:[https://www.melon.or.jp/contents/Global\\_Warming/rupo/COP16.html](https://www.melon.or.jp/contents/Global_Warming/rupo/COP16.html)  
JCCCAウェブサイト：[https://www.jccca.org/trend\\_world/conference\\_report/cop16/](https://www.jccca.org/trend_world/conference_report/cop16/)

10年で、

# 1,303件

※2010～2019年度の診断数の合計

「うちエコ診断」は、受診される家庭の年間エネルギー使用量や光熱費などの情報をもとに「うちエコ診断士」が、環境省の「うちエコ診断ソフト」を用い、受診者とのコミュニケーションを通じて、お住まいの気候や家庭のライフスタイルに合わせて無理なくできる省CO<sub>2</sub>・省エネ対策を提案するものです。

2010年度の準備期間を経て、2011年度より実施しています。

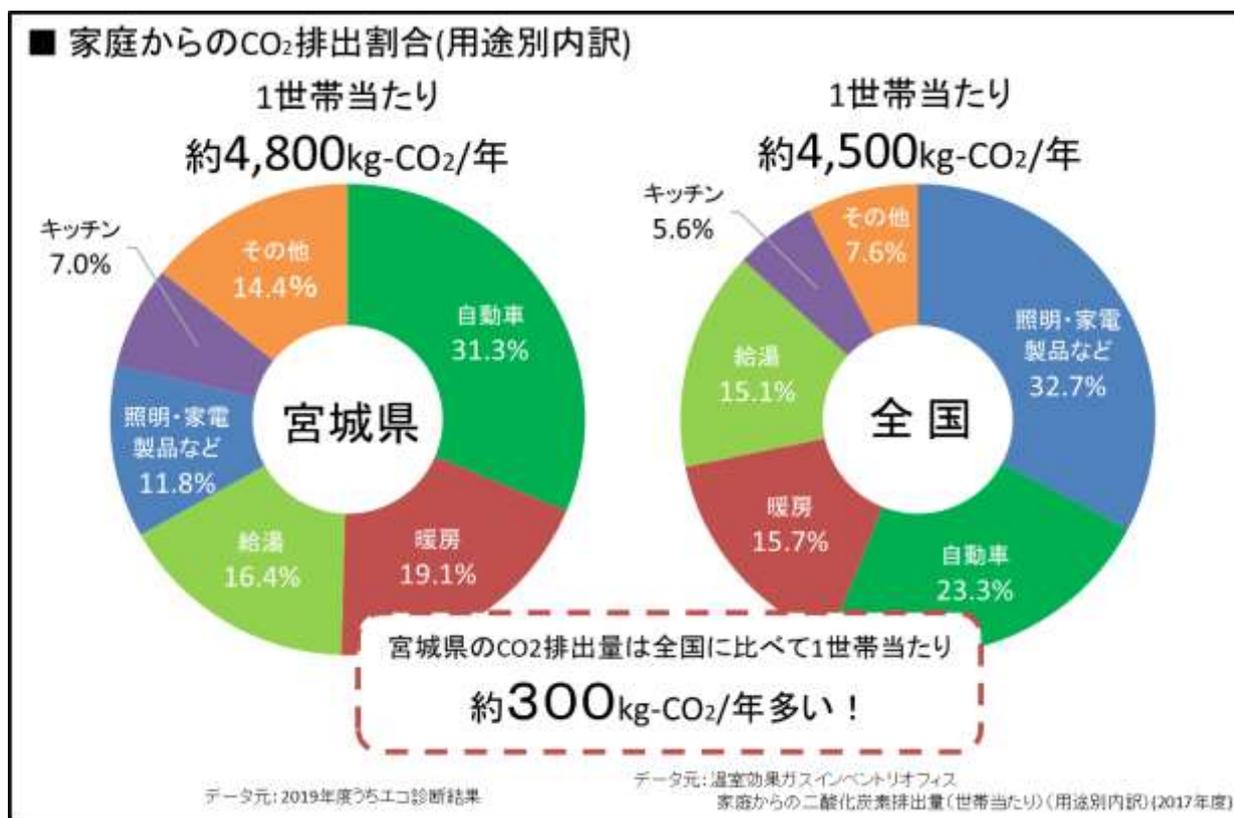
診断後3カ月を目途に、受診世帯に対してどのような対策を実施したかの調査を行い、対策の実施結果をもとに事業全体としての効果を算定しています。

## 《うちエコ診断の4つのポイント》

1. 各家庭に合わせて、オーダーメイドの対策を提案します。お住まいの気候やご家庭のライフスタイルに合わせて無理なくできる地球温暖化対策を提案します。
2. 地球温暖化問題、省エネ機器、家庭の地球温暖化対策の知識を持った専門家が診断を行います。家庭での温暖化対策のなぜ？どうして？にお答えします。
3. 専門ソフトを用いて、各家庭のエネルギー使用量や光熱費、CO<sub>2</sub>排出量をわかりやすくお見せします。年間にどこから、どれくらい光熱費がかかっているのか、ご家庭からどのくらいCO<sub>2</sub>が排出されているか一目わかります。
4. すぐに対策を実行できるように、具体的な情報を提供します。具体的にどうすればいいの？どこで売っているの？といった質問にお答えします。



うちエコ診断中（2016年）





### 「うちエコ診断活動」と「推進員活動」の両立

井上正志さん  
うちエコ診断士  
推進員（第8期生）

宮城県地球温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化センターみやぎ）が設立20周年を迎えますこと、心よりお祝い申し上げます。

私は、平成27年4月より、宮城県地球温暖化防止活動推進員（第8期）＜以下、推進員＞の活動を開始し、自ら家庭で出来る省エネ対策を実践してみて、自分に出来たことを他の人にも伝えて行こうと思い「うちエコ診断士」になりました。

推進員と並行して、うちエコ診断活動を継続できたのは、「ストップ温暖化センターみや

ぎ」スタッフの方々のご支援と各種研修を通して、他の診断士の方々との交流ができたからと感謝しております。

うちエコ診断活動の思い出として、平成29年10月開催「おおがわらオータムフェスタ」の会場診断で、突然大雨が降り、駐車場特設会場内が浸水し、電源元が心配でプリンター出力を中止、診断結果を後日スタッフに郵送して頂いたこともありました。

今年はコロナ禍の影響もあり、うちエコ診断活動は自粛をせざるを得ない状況にあります。一方、社会環境の変革により、WEBによる遠隔診断も検討されています。

私にとって、うちエコ診断活動も推進員の一環であり、今後も両立して行きたいと思います。

今後も、「ストップ温暖化センターみやぎ」が永続的に発展し、益々ご活躍されますことを祈念させていただきます。



### 「うちエコ診断」について

川村真貴さん  
うちエコ診断士  
推進員（第7期生）

日常生活で省エネや節約について誰かと真剣に話す機会は、なかなか無いと思います。

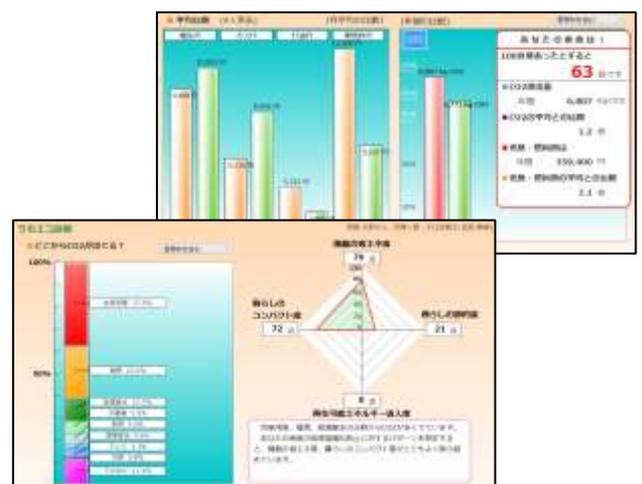
うちエコ診断は家庭の年間光熱費やエネルギー使用量、ご自身で実践している節約方法を話してもらうことから始まります。

私は診断する際、聞いた内容にプラスして各家庭に応じた省エネ・節約のアドバイスを行い、無理なく取組めるよう受診者の皆さんにお伝えをしています。

例えば冷蔵庫と壁の間に隙間を作るなど少しの工夫でCO2排出量を減らすことができます。

また診断ソフトを使って削減効果を実感できると皆さんやりがいを感じてくれるので私も嬉しくなります。

受診者と一緒に考えた省エネや節約方法を家庭に持ち帰り、家族みんなで実践してもらうことがCO2削減に繋がる第一歩だと思っています。



うちエコ診断ソフトの画面例

#### 【受診した方のコメント】

- ・省エネについての意識が家族の間にも広がり、うちエコ診断を受けてよかったと思いました。（仙台市 Wさん）
- ・普段の生活の中で少し気を付けることでecoにつながっていると実感できました。これからも続けていけたらと思いますし、また診断していただきたいです。（気仙沼市 Sさん）

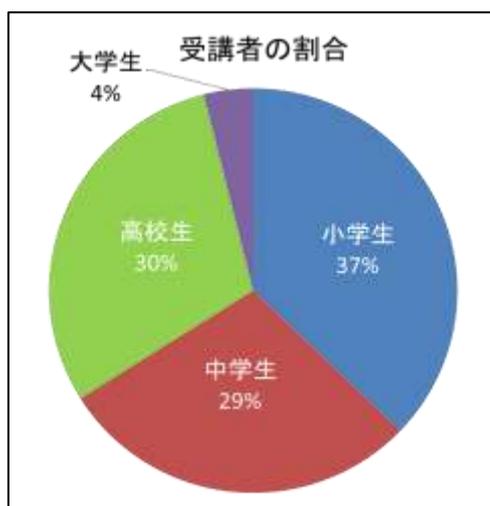
4年で、

# 8,599名

※2016～2019年度の受講者の合計  
※開催校数は合計70校

地球温暖化問題は、遠い未来や遠い国の話ではなく、すでに影響を受けている人々がいて、日本・宮城県に住む私たちも他人事ではありません。太平洋に浮かぶ小さな島国「キリバス共和国」の文化とそこに暮らす人々の生活を通じて、私たちに何ができるのかを考えるきっかけを作るため、2016年度より宮城県内の小中学校等を対象に、日系キリバス人講師のケンタロ・オノ氏による出前講話を実施してきました。

2020年11月にはオノ氏と共に取り組んできた「気候変動最前線国キリバス共和国をテーマとした気候変動防止啓発活動」が気候変動アクション環境大臣賞を受賞しました。



## 令和2年度 気候変動アクション 環境大臣表彰



子どもたちに語りかける講師（2017）



たくさんの写真を見ながらの講話（2017）

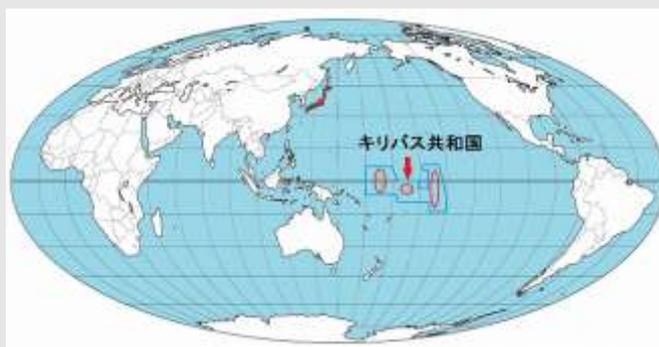


元気に手をあげる子どもたち（2020）



### キリバス共和国

キリバス共和国は、太平洋のど真ん中、赤道と日付変更線の交わる地域にある、33のサンゴ礁の島々からなる常夏の国。ミクロネシア東端の豊かな文化を伝える唄踊りの盛んな大変美しい島国です。首都タラワ。人口は約11.6万人（2018年、世界銀行）。島々の平均海抜がわずか2メートル前後、幅は数百メートルしかなく、気候変動等の影響によって海水の水位が年々上がる等により、近年では存亡の危機にある国として知られるようになりました。



## ご縁、必然な偶然、そしてキリバスの未来の子どもたちの故郷から皆さんへのエール



一般社団法人日本キリバス協会代表理事 ケンタロ・オノさん

創立20周年という節目を迎えられ、関係される全ての皆さんのご尽力と熱意に心からの敬意を表したいと思います。私がストップ温暖化センターみやぎとその母体である公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークの皆さんのお骨折りで、2016年度から宮城県内の学校でキリバスを題材とした環境出前講話をさせて頂く機会、協働で様々なキリバス関連のプログラムをさせて頂く機会、そして初代の宮城県ストップ温暖化大賞を頂戴するきっかけは、今思うと本当にふとしたきっかけで、そのきっかけは「必然な偶然」だったのかもしれませんが。本当に人生とご縁というのは不思議で、とても面白いものだと思うのです。

私の国、中央太平洋にあるキリバスは低海拔環礁国であるため、気候変動によって、最悪の場合2050年には人が住めなくなる可能性すら予測されている気候変動の最前線国です。今まで経験したことがないほどの海岸浸食と浸水被害、高潮、そして干ばつにも見舞われることが増えています。水資源や食料にも大きな影響が出ています。

そんなキリバスでインターネットが国内で普及したばかりの頃、「宮城県」「地球温暖化」のキーワードでネットサーフィンをしていたところ、ストップ温暖化センターみやぎの存在を知りました。心が大きく震えるほど熱く感激しました。なんとありがたく、心強く思ったことでしょうか。そしてすぐにその気持ちをメールで送りました。23歳で帰化して以来、キリバスが私の故郷です。同時に、もう一つの私の故郷は、15歳でキリバスに単身向かうまで生まれ育ち、今再移住したこの宮城です。この出会いを「必然の偶然」と言わず、なんと言うべきでしょうか！

キリバスは地球の東西南北全ての半球をまたぐ世界唯一の国です。まさに地球そのものなのです。そしてそのキリバスが、つまり地球がいま、気候変動により危機的な状況にあります。日本も今まで経験したことがないような災害が増えています。熱中症もそうです。決して他人事ではないのです。

気候変動は私たち人間が引き起こした人災です。人災だからこそ、私たち人間が解決しないといけません。そして僕は人間が解決できると希望を持っています。残された時間は少ないかもしれませんが。しかし、キリバスの、そして全ての未来の子どもたちの故郷、そして彼らが当たり前の生活を当たり前で過ごすためには、希望は決して捨てられないのです。

希望は捨てていません。それは、宮城の皆さんが一番知っているからです。先の東日本大震災という自然災害を通して、故郷を失う計り知れない心の痛み、故郷が傷つく心の辛さ。そして私の国キリバスの子どもたちは、私たちが引き起こした人災である気候変動によって、将来同じ思いをする危機にあります。

このことから、ストップ温暖化センターみやぎの運営や関わっている全ての皆さんに、心からお礼の言葉をお伝えしたいのです。それは、皆さんの熱意と活動がキリバスを、そしてこの地球を持続可能な形で次の世代に引き渡せるよう活動して下さいからです。

気候変動は、このままでは取り返しのつかないツケを次世代に残してしまいます。気候危機と言ってもいいでしょう。

愛の反対とは何か？愛の反対とは憎しみや恨みではなく、愛の反対とは無知と無関心です。「誰一人取り残されない」ために、一人でも多くの皆さんが、気候危機の現実を知って関心を持ち、一人でも多くの皆さんが行動に移すという愛です。その愛の架け橋をストップ温暖化センターみやぎが担っているのです。

僕は、そしてキリバスの未来の子どもたちは、皆さんの愛に希望を持っています。皆さんの愛を信じています。キリバスのお守りであるTe mauri, te raoi, te tabomoa（祝福・平和・健康）が常に皆さんと共にあることをお祈りしています。

## Column 「未来のために～気候変動の影響への適応～」

環境省東北地方環境事務所 環境対策課地域適応推進専門官 金 鋼一氏

2015年末、COP21ですべての国が地球温暖化への対策に取り組むことが約束された、歴史的な協定『パリ協定』が採択されました。地球温暖化の進行で懸念される影響は、温室効果ガスの排出削減を最大限実施したとしても完全には避けられず、その影響に備えるための適応が必要だと言われています。

近年、毎年のように大きな自然災害が発生しております。今年も、九州、中部、東北と1か月にも及ぶ令和2年7月豪雨や、昨年は九州北部豪雨や台風15号、台風19号の大きな台風が上陸しており、もはや異常気象ではなく、気候変動が起きているという状況です。

気候変動の大きな原因は、私たちが排出している温室効果ガスだと言われています。温室効果ガスが増えると、気温上昇や降雨パターンの変化などの気候変動が起きます。

気候変動が起きると、生活、社会、経済、自然生態系などへ影響が及びます。このため、温室効果ガスを減らすという取組と、残念ながら顕在化する気候変動のリスクに適応していくという、両面から気候変動を捉えていくことが必要だというのが現状です。

気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を少なくする対策、地球温暖化を防ぐことが「緩和策」で、既に生じている、あるいは将来予測される気候変動の影響による被害を避け、軽くなるようにする対策、気候変動の影響に備えることを「適応策」といいます。

緩和策と適応策は、どちらかを頑張ればいいというものではなくて、気候変動対策の車の両輪ですので、国も、都道府県も市町村も事業者もそして個人でも、両方に取り組んでいくことが大事です。



「緩和」と「適応」

出典：気候変動適応情報プラットフォーム(A-PLAT)



適応策の例

では適応策というのはどのようなことなのでしょう。緩和策なら省エネの徹底や資源の再利用・循環利用などすでに実施されているかもしれませんが、適応策はやったことがないと思っている人も多いと思います。でも、実は、誰もがやっているのが適応策です。

暑い日は、水をこまめに飲んだり、外に出るときは帽子をかぶったりして、一人ひとりが自分の健康を守る行動をすることも、暑熱に対する「適応」です。天気予報や防災アプリを確認することや、避難場所や避難経路を確認し、自然災害に備え身を守る準備をすることも重要な「適応」です。

つまり、適応策というのは、気候変動の問題ではありますが、直接的に私たちの命や生活を守る取組だということです。

地球上に、今起きているような急激な気候変動に適応できる種は少ないです。でも、ヒトには技術があり、適応の行動をしながら、生活の仕方を変えていくことができます。

未来のために、今、気候変動の影響への適応を始めましょう。



インターン活動で  
得られたこと

2009年度インターン生  
神林満男さん

学生時代は、特に地球温暖化や環境汚染などの環境問題に関心があり、大学に通いながら自分で何かできることを探していました。

そんな中、環境インターンの募集があることを知り、ストップ温暖化センターみやぎでインターンをさせていただくことになりました。

開始当初は学生気分が抜けきらず、楽しみながら社会に貢献できればいいな、という程度で考えていました。このインターン活動を通じて、センターが行う一般市民向けの研修会に参加するなかで、地球温暖化等についてより深い知識

を得ることはできましたが、なにより大きかったことは、社会人として求められるビジネスマナーや働き方を教わることができたことです。トレーナーの方からのご指導は時に厳しいところもありましたが、同期のインターン生の小山田陽奈さんと相談したり、当時ストップ温暖化センターみやぎ統括であった井上郡康さんはじめ、MELONの皆さんに優しく声をかけてもらえたことで、たくましく成長できました。

また、インターンの後半には、あるイベントのブース出展を企画から運営まで任せていただきましたが、自分で考えて行動することの難しさを感じつつ、大きなやりがいと達成感を得ることができ、私の大切な経験となっています。

最後になりますが、ストップ温暖化センターみやぎの20周年を心からご祝い申し上げるとともに、今後ともインターン生の育成等により地域社会へますます貢献されますことをご祈念いたします。



COP25報告会in 仙台

2019年度インターン生  
平澤拓海さん

コロナ渦が私たちの生活を大きく変化させる直前、私はCOP25に参加し、報告会を仙台で行いました。

気候変動というグローバルで最重要な課題を前にして、世界の流れを知り、その想いを仙台で広げていくことは、自分にできる大きな役割のように感じていました。

幸いにして私はClimate Youth Japanという団体に所属し、国内外の情報や仲間を集めながらも、MELONでインターンをし、実行をする手立ては整っていました。

実際に派遣に参加する中では、開催地の変更や、宿のトラブルなどに見舞われながら、使命を全うするために必死に行動しました。結果として、小泉大臣に若者の声を届け、私たちの声を世界に発信することができ、自分自身の大きな経験となるとともに、一定の結果を生むことができたと思います。

さらに重要視していたのは、仙台の報告会でした。特に都心と比べ仙台では、若い人からの声小さいということを懸念していました。なるべく多くの人に参加してもらえるように、環境系の団体のブースを設け、私自身も楽しくお話をすることを心がけていました。当日は多くの方にご参加いただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

持続可能な社会を作り上げるために、みなさまと一緒に努力して参りたいと思います。

※「CSOラーニング制度」とは…SOMPO環境財団が「木を植える人を育てたい」という思いから、社会で活躍する人材を育成するために2000年度より始めた制度です。大学生・大学院生が、環境問題に取り組むCSO（市民社会組織、NPO・NGOを包含する概念）で8ヶ月間のインターンシップの経験を通して、環境問題や市民社会のあり方などについて考え、より視野の広い社会人になることを目指しています。またCSOにとって、マンパワー支援の一助となることを目的としています。

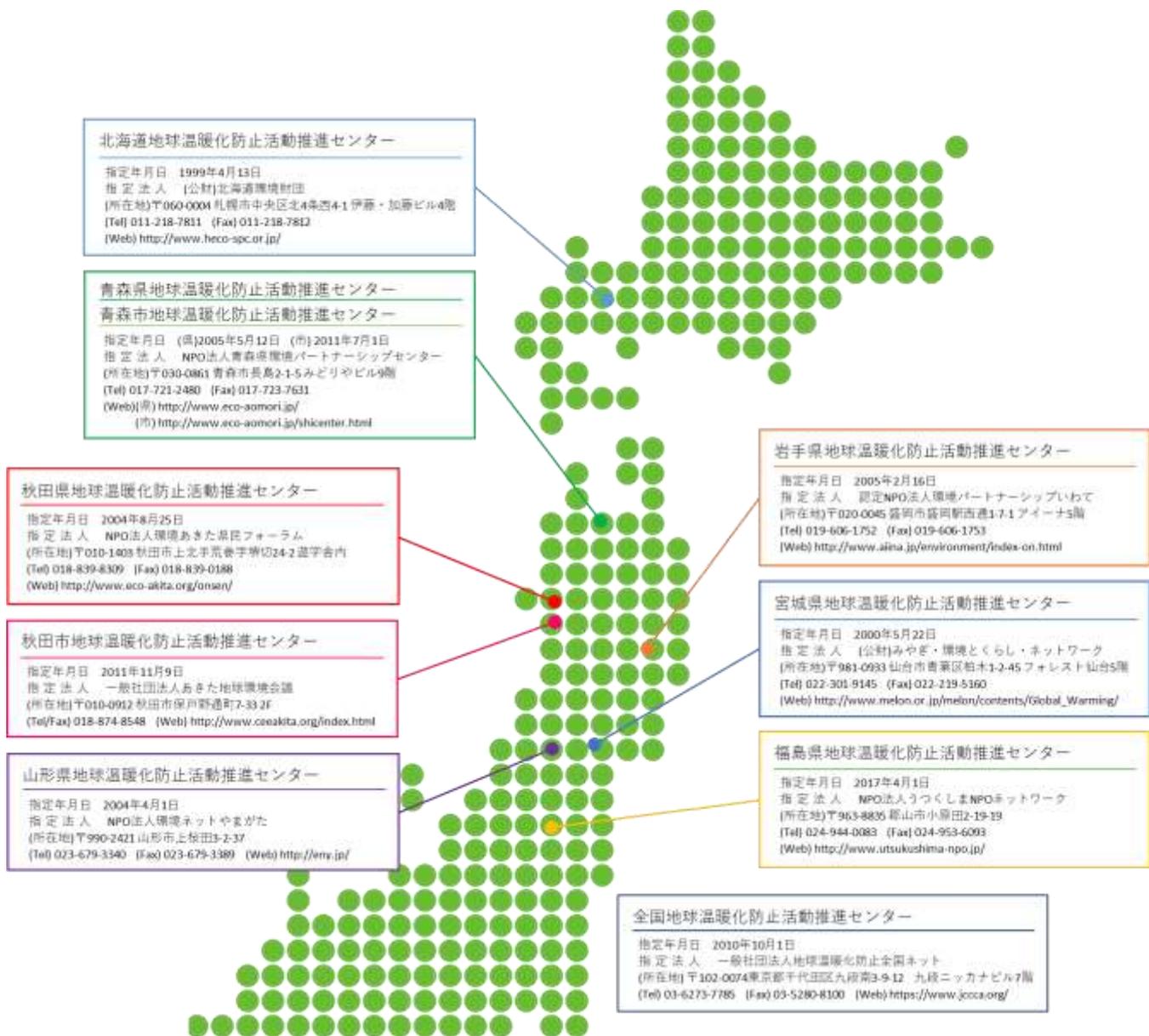
# 北海道・東北ブロック地球温暖化防止活動推進センター



北海道・東北ブロック合同推進員研修（2019）

地球温暖化防止活動推進センター（以下、地域センター）は、北海道・東北地域には9つあり、それぞれが推進員と連携しながら地域に根差した活動を行なっています。

日頃の活動の成果や悩みを共有し、交流を深め、また、その経験を自分たちの地域へ持ち帰り、他の推進員に伝えることにより、各地域の活動のレベルアップに生かすことを目的として、北海道・東北地域で活動する地域センター職員や推進員が一堂に会し、情報共有や意見交換の機会を設けています。





### 祝辞と宮城県センター への感謝

一般社団法人地球温暖  
化防止全国ネット  
秋元智子さん

宮城県センター設立20周年おめでとうございます。全国で4番目に立ち上がったセンターとして、先人をきって他の地域センターを牽引してこられ、また20年間休むことなく活動を継続してこられたことに心より賛辞を送ります。

全国ネット設立当初から、宮城県センターと親団体のMELON様には、物心両面で支えていただきました。宮城県センターの親団体の理事長として、地球温暖化防止全国ネットの理事長を設立当初から9年間担っていただきました長谷川前理事長には、組織運営から事業運営、さらに全国の地域センターへの対応など、あらゆる面でご尽力をいただき言葉では言い尽くせな

いほど感謝しております。

宮城県センターは、10年前に発生した「東日本対震災」を経験され、震災から立ち上がって活動を再開することには大変なご苦労があったのではないかと想像します。よくピンチをチャンスに変えてと申します。宮城県センターもチャンスに変えて、活動をバージョンアップされて今日を迎えられたことと存じます。

今、時代の流れはとても早く、さらに予期せぬ出来事に遭遇します。

先の見えない状況ではありますが、共に持続可能な脱炭素社会を目指し歩んでいきたいと思えます。これからの宮城県センターの増々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



Japan Network for Climate Change Actions

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット  
Japan Network for Climate Change Actions



### 京都議定書時代から ともに歩んだ 先発組センター仲間より

公益財団法人  
北海道環境財団  
久保田学さん

20周年をお祝い申し上げます。北海道センターは、1999年4月の温対法施行のわずか5日後（全国センターより1ヶ月以上も早く）に知事指定を受けたのですが、翌年に兵庫県と宮城県がセンターを指定するまで相談相手もおらず寂しい思いでした。2001年に11番目の山口県センターが誕生した段階でセンター間の情報交換を呼びかけ、13センター（+全国センター）で連絡会を結成して札幌で総会を開催したのが2002年のことです。当時、ご担当の南さんといういろいろやりとりしたことを思い出します。その後、私自身が長らく連絡会運営に関わることになり、MELONさんの代表幹事選出（2006年）、

仙台での盛大な総会開催（2008年）、民主党政権の「事業仕分け」に端を発する全国センター受託団体設立と長谷川理事長のご就任（2010年）などに側面から関わらせていただきました。

2010年からEPO東北の運営を担われたことで地方EPOどうしの交流もはじまり、20年余の苦楽をあれこれともにさせていただきました。そんな経緯もあり、宮城とは地理的には離れていますが、心理的にはとても近く感じています。

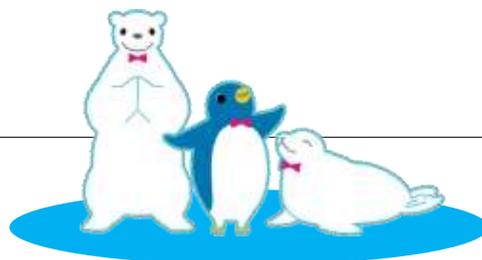
2030年に向けた対策が急務となる中、お互い着実に成果をあげていけるよう、変わらぬ交流をお願いする次第です。



連絡会設立総会（2002年10月28日-札幌）

**ストップ温暖化センターみやぎ20周年記念誌**

発行年月：2020年12月



発行：ストップ温暖化センターみやぎ（宮城県地球温暖化防止活動推進センター）

住所 〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5階

（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）内

TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail stop\_gw@miyagi.jpn.org URL <https://www.melon.or.jp/>

